

札幌市スポーツ推進計画改定版(案) 主な修正点

資料3

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
1	P1 9行目 23行目	<p>・「札幌市スポーツ推進計画」を策定しています。</p> <p>・このたび、札幌市スポーツ推進計画(以下、「推進計画」という。)の見直しを行うことにしました。</p>	<p>・「札幌市スポーツ推進計画(以下、「推進計画」という。)」を策定しています。</p> <p>・このたび、推進計画の見直しを行うことにしました。</p>	修正
2	P2	第2期スポーツ基本計画の内容については、P31をご覧ください。	第2期スポーツ基本計画の内容については、P28をご覧ください。	誤記修正
3	P6	第2期計画においては、第1期計画で7つあった基本方針(P6参照)が、	第2期計画においては、第1期計画で7つあった基本方針(P2参照)が、	誤記修正
4	P6	<p>(略)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も関連付けた内容となっています。</p> <p>そのため、東京に続きオリンピック・パラリンピック招致を目指す札幌市においても、この第2期スポーツ基本計画における考え方を踏まえながら、推進計画の見直しの必要性が高いといえます。</p>	<p>(略)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も関連付けた内容となっています。</p> <p>さらに地方公共団体には、第2期計画を参酌してできる限り速やかに地方スポーツ推進計画を改定・策定し、地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツ施策を主体的に実施するとともに、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに取り組むことが求められています。</p> <p>そのため、札幌市においても、この第2期スポーツ基本計画における考え方を踏まえながら、推進計画の見直しを行う必要があります。</p>	第2期スポーツ基本計画において、国が地方自治体に求めている内容を追加
5	P6	第2期スポーツ基本計画から取り入れる主な内容については、P32をご覧ください。	第2期スポーツ基本計画から取り入れる主な内容については、P29をご覧ください。	誤記修正
6	P6	1972年のオリンピックから40年以上が経過し、	冬季オリンピックの開催から40年以上が経過し、	修正
7	P9	平均寿命の延び以上に健康寿命を延ばすことで不健康な期間を短縮し健康な期間を延ばしていくためには	平均寿命の延び以上に健康寿命を延ばすことで、日常生活が制限されずに生活できる期間を短縮し健康な期間を延ばしていくためには	修正
8	P10	<p>札幌市におけるスポーツ実施率※は、平成26年度の45.0%をピークに減少傾向でしたが、近年、身近な健康づくりを促進する取組を展開してきたことや、調査を国に合わせて、市民の健康づくり活動の実態をよりの確に捉えられる内容に見直したこともあり、直近の平成29年度(2017年度)調査では、調査開始以来最高となる56.4%まで上昇しました(図表4)。</p> <p>国では、本格的なスポーツをする人のみならず、日々の暮らしの中で気軽に体を動かす人も含めて、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ実施率※の向上のための取組を進めており、平成29年(2017年)にはプロジェクトを立ち上げ、「スニーカー通勤」など歩きやすい服装での通勤を推奨するキャンペーンなども展開しています。</p> <p>札幌市においても</p>	<p>国では、本格的なスポーツをする人のみならず、日々の暮らしの中で気軽に体を動かす人も含めて、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ実施率※の向上のための取組を進めており、平成29年(2017年)にはプロジェクトを立ち上げ、「スニーカー通勤」など歩きやすい服装での通勤を推奨するキャンペーンなども展開しています。</p> <p>札幌市におけるスポーツ実施率※は、平成26年度の45.0%をピークに減少傾向でしたが、近年、身近な健康づくりを促進する取組を展開してきたことや、調査を国に合わせて、市民の健康づくり活動の実態をよりの確に捉えられる内容に見直したこともあり、直近の平成29年度(2017年度)調査では、調査開始以来最高となる56.4%まで上昇しました(図表4)。</p> <p>このように、札幌市においても</p>	上下の文章を入れ替えし、最初に国の状況を説明する。

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
9	P12	この結果からも、スポーツ参画人口を拡大していく上では、気軽にスポーツに親しめるような環境を整備していくことが必要と考えられます。	この結果からも、スポーツ参画人口を拡大していく上では、ビジネスパーソンなどが一人でも気軽にスポーツに親しめるような環境を整備していくことが重要と考えられます。	修正
10	P13	ウインタースポーツ実施率は年に1回以上ウインタースポーツを行った成人の割合を示す指標です。	ウインタースポーツ実施率は年に1回以上ウインタースポーツを行った成人の割合を示す指標として、札幌市が独自に調査しているものです。	修正
11	P13	ウインタースポーツ実施率の目標値として25%を掲げ、	ウインタースポーツ実施率については、その目標値として25%を掲げ、	修正
12	P16	ウインタースポーツを行う際の妨げとなっている理由を全体でみると、「仕事や家事が忙しい」が最も高い結果(図表15)であり、次いで割合の高い「用具購入にお金がかかる(36.5%)」や「施設利用料が高い(25.4%)」が、他のスポーツと比べウインタースポーツで特に顕著にみられる傾向です。 そのため、ウインタースポーツを推進していく上では、(略)	ウインタースポーツを行う際の妨げとなっている理由を全体でみると、「仕事や家事が忙しい」が最も高い結果(図表15)であり、次いで割合の高い「用具購入にお金がかかる(36.5%)」や「施設利用料が高い(25.4%)」が、他のスポーツと比べウインタースポーツで特に顕著にみられる傾向です。また、施設が郊外にあることが多いことから、交通アクセスの面で他のスポーツより行うことが難しいケースも考えられます。 そのため、ウインタースポーツを振興していく上では、(略)	修正
13	P16	○スポーツボランティアへの参加 地域スポーツ現場は、多くのボランティアに支えられており、地域のスポーツ活動の活性化を図る上ではボランティアの協力が不可欠です。	○スポーツボランティアへの参加 地域におけるスポーツの場は、多くのボランティアに支えられており、地域のスポーツ活動の活性化を図る上ではボランティアの協力が不可欠です。	修正
14	P17	笹川スポーツ財団の「スポーツ白書2017」によれば、成人のスポーツボランティア実施率は、近年6%から8%台を推移しており(図表19)、札幌市の状況も似通ったレベルです。	笹川スポーツ財団の「スポーツ白書2017」によれば、成人のスポーツボランティア実施率は、近年6%から8%台を推移しており(図表19)、札幌市も同じような状況といえます。	修正
15	P18	平成25年度から平成29年度までの間に選手、役員、観客を合わせて1,000人以上が参加する大規模な大会をすでに8大会開催しました(図表21)。	札幌市では、平成25年度(2013年度)から平成29年度(2017年度)までの間に選手、役員、観客を合わせて1,000人以上が参加する大規模な大会をすでに8大会開催しました(図表21)。	年表記の修正は他にも有り
16	P21	●トップスポーツやアスリートと身近にふれあう機会の創出 プロスポネットSAPPOROの活用 (略) <主な事業> (略)	●トップスポーツやアスリートと身近にふれあう機会の創出 プロスポネットSAPPOROの活用 (略) <主な事業> (略) ・北海道胆振東部地震による被災地域の応援を目的とした「SPORTS MAKE SMILES」プロジェクトによる学校訪問 (略)	直近の取組実績として追記
17	P22	その他、スポーツ施設の改修時には、手すりや点字タイル、オストメイトなどの設置を行っており、今後も引き続き実施していきます。	このほか、スポーツ施設の改修時には、手すりや点字タイル、オストメイト対応の設備などの設置を行っており、今後も引き続き実施していきます。	誤記修正

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
18	P25	2017冬季アジア札幌大会の開催 (略) 開催競技 5競技11種別 (略)フィギュア)、	2017冬季アジア札幌大会の開催 (略) 開催競技 5競技/11種別/64種目 (略)フィギュアスケート)、	修正
19	P26	さっぽろグローバルスポーツコミッションの設立 (略) スポーツを通じた新たな観光客の拡大や都市ブランドを高めるための	さっぽろグローバルスポーツコミッションの設立 (略) スポーツを通じた新たな観光客の獲得や都市ブランドを高めるための	修正
20	P29	今回の推進計画の見直しでは、日々の生活において取り入れることができる運動習慣への視点を新たに取り入れるとともに、	今回の推進計画の見直しでは、日々の生活において行うことができる運動習慣への視点を新たに取り入れるとともに、	修正
21	P31	札幌市は、190万人を超える大都市でありながら、郊外には豊かな自然が多く、年間6mもの降雪量があるという特色から、ウインタースポーツに親しむための環境が整っています。	雪国である札幌市では、市民がウインタースポーツに親しむための環境が整っています。	P37基本理念の記述と重複するため変更
22	P31	札幌市は平成26年11月に冬季オリンピック・パラリンピック招致を表明して以降、平成28年11月に、日本オリンピック委員会(JOC)へ開催提案書を提出し、平成29年11月からは国際オリンピック委員会(IOC)における招致プロセスの最初の段階である対話ステージに参加しました。	(削除)	削除
23	P32	(略)札幌のウインタースポーツ都市としてのプレゼンスを高め、アジア、そして世界に誇るウインタースポーツの拠点都市を目指し取り組んでいきます。	(略)札幌のウインタースポーツ都市としての存在感を高め、アジア、そして世界に誇るウインタースポーツの拠点都市を目指し取り組んでいきます。	修正
24	P33	しかし、個人におけるスポーツ実施率の推移は未だ目標の65%には達しておらず、若い世代やビジネスパーソン、女性のスポーツ実施率は低迷しています。	しかし、個人におけるスポーツ実施率の推移は未だ目標の65%には達しておらず、ビジネスパーソンなどの若い世代のスポーツ実施率は低迷しています。	修正
25	P33	今後に向けては、これまでの取り組み成果や第2期スポーツ基本計画による新たな視点を取り入れて、	今後に向けては、これまでの取組から見えてきた課題や第2期スポーツ基本計画による新たな視点を取り入れて、	修正
26	P34	スポーツへの関わり方には、(略)参加することで、すべての人がスポーツの価値を享受し、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにすることが出来ます。	スポーツへの関わり方には、(略)参加することで、健康や体力の保持増進のほか、精神的な充足感を獲得することができます。	P37基本理念の記述と重複するため変更
27	P34	若年期における	幼少期における	修正
28	P35	方向性2「さっぽろ」へのアプローチ	方向性2「さっぽろ」全体へのアプローチ	修正
29	P35	スポーツを通じて人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、他者への理解を促し、共感し、敬意が生まれます。スポーツを通じて多様な人々とともに生きる共生社会の実現を目指します。	スポーツを通じて人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、他者への理解を促し、共感し、敬意が生まれます。こうしたスポーツの力を通じて、多様な人々とともに生きる共生社会の実現を目指します。	修正

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
30	P35	札幌の持つ魅力やスポーツ機能を世界に対して発信することで、国内外から人、モノ、情報などを引き付け、世界都市として北海道をリードしていくまちを目指します。	札幌の持つ魅力やスポーツ環境を世界に対して発信することで、国内外から人、モノ、情報などを引き付け、世界都市として北海道をリードしていくまちを目指します。	修正
31	P36	基本理念 スポーツ元気都市札幌	基本理念 スポーツ元気都市さっぽろ	誤記修正
32	P36図 表 P38 P56	目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をみかく スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで「さっぽろ」を磨きあげていくことを目指します	目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します	再検討のうえ修正
33	P40	—	<p><新たに設定した指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者のスポーツ実施率 今後強化していく障がい者スポーツの指標として新たに設定。 ●スポーツ目的の来札外国人観光客数 スポーツによる経済波及効果を示す指標として新たに設定。 <p><変更した指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウインタースポーツ実施率(18歳～49歳・年1回) 「ウインタースポーツ文化の継承」という視点に重きを置き、調査対象年齢を、これまでの成人すべてから、30歳代までの若い世代と小学生の子を持つ割合の高い40歳代に着目して変更。 	成果指標の変更点について補足説明を追加
34	P41	方針3 様々な形・場のスポーツ参加を促進	方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進	修正
35	P41	目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をみかく 施策9 障がいの有無を問わず親しめるスポーツを振興します	目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる 施策9 障がい者スポーツを振興します	再検討のうえ修正
36	P42	このような現状を踏まえ、若年期から高齢期まで、市民誰もがライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります。	このような現状を踏まえ、幼少期から高齢期まで、市民誰もがライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります。	修正
37	P43	(2)ビジネスパーソンや女性に対するスポーツ機運の醸成	(2)ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成	施策①に合わせるかたちで修正
38	P44	●中央体育館の改築 市民のスポーツ活動を支える中核スポーツ施設として、各種競技大会の大規模化や多様化する市民ニーズに対応可能な施設として整備します。	●新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館 市民のスポーツ活動を支える中核スポーツ施設として、プロスポーツや大規模大会、多様化する市民ニーズに対応が可能な新しい中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)を開館します。	H31.4供用開始予定を踏まえて修正

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
39	P46	●カーリング競技の普及 札幌市カーリング場(どうぎんカーリングスタジアム)で、子ども向け指導プログラムなどを実施します。	●カーリング競技の普及 札幌市カーリング場(どうぎんカーリングスタジアム)で、子ども向け指導プログラムやレベル別講習会などを実施し、競技の裾野拡大や競技力の向上を図ります。	修正
40	P47 P53 P65	●さっぽろアスリートサポート事業 大会や強化合宿等の参加経費への補助や、指導者の資格取得費用の補助など、経済的な負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。	●さっぽろアスリートサポート事業 札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加経費等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。	修正
41	P48	(2)健康づくりセンターの活用 市民の自主的な健康づくり活動の場である健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。	(2)健康づくりセンターの活用 市民の自主的な健康づくり活動の場である健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。 また、生活習慣病の重症化予防対象者を始めとした、特に支援が必要な方に対しては、医療機関等と連携し利用促進を図るとともに、長期未利用者に対して勧奨を行っていきます。	レベルアップ分について追記
42	P49	●カーリング競技の普及 札幌市カーリング場(どうぎんカーリングスタジアム)で、初心者向けの教室や団体向けのレクリエーションの開催など気軽にカーリングを体験できる機会を提供することで、競技の裾野を拡大するとともに競技力の向上を図ります。	●カーリング競技の体験機会の提供 札幌市カーリング場(どうぎんカーリングスタジアム)で、体験教室や団体向けのレクリエーションの開催など、気軽にカーリングを体験できる機会を提供します。	競技力向上は「方針2 スポーツを通じた健康増進」に合致しないため削除
43	P50	●雪かき汗かきチャレンジ 自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しませるとともに、冬季における運動習慣の定着を図ります。	●雪かき汗かきチャレンジ 自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるようにするとともに、冬季における運動習慣の定着を図ります。	修正
44	P51	●地域スポーツ指導者の中学校への派遣 中学校の体育の学習に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動を充実させます。	●地域スポーツ指導者の中学校への派遣 中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動を充実させます。	例示として「スキー学習」を追記
45	P53	地元出身のアスリート輩出は、地元の誇りにもなり、市民をスポーツに向かわせる動機にもつながります。	地元出身のアスリート輩出は、地元の誇りにもなり、市民がスポーツに取り組もうとする動機にもつながります。	修正
46	P55	図表24 トップアスリートと地域の好循環(概念図)	図表24 トップアスリートと地域の好循環(概念図)	図表の中央に「施設管理者」を追加

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
47	P56	施策⑨障がいの有無を問わず親しめるスポーツを振興します (1)障がい者スポーツの普及・振興の促進 障がいのある方の運動機能の維持、回復のためには、スポーツは有効な手段であり、障がいのある方の自立に役立つとともに、他の方との相互理解を生み出します。	施策⑨障がい者スポーツを振興します (1)障がい者スポーツの普及・振興の促進 障がいのある方の <u>生きがい、生活の質の向上</u> や運動機能の維持、回復のためには、スポーツは有効な手段であり、障がいのある方の自立に役立つとともに、他の方との相互理解を生み出します。	再検討のうえ修正
48	P56	みなみの杜高等支援学校を拠点とした障がい者スポーツクラブを開設し、障がい児・者が継続的にスポーツに親しめる環境をつくります。	みなみの杜高等支援学校を拠点とした障がい者スポーツクラブを開設し、障がいのある方が継続的にスポーツに親しめる環境をつくります。	修正
49	P59	(2)市民スポーツ大会の開催支援 スポーツ都市としての知名度のさらなる向上を図り、スポーツを「する」ために、札幌市を訪れる人々を増やすため、(略) <主なスポーツ大会> (略)	(2)市民スポーツ大会の開催支援 スポーツ都市としての知名度のさらなる向上を図るとともに、スポーツを「する」目的で、札幌市を訪れる人々を増やすため、(略) <主なスポーツ大会> (略) ・北海道を歩こう 参加者数 1,453人(平成29年度実績)	主なスポーツ大会を追加
50	P60	●スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出 国内外の観光客が、スキー場などの郊外型観光資源において、冬のアクティビティとして気軽にウインタースポーツに親しむことができるよう、体験型の機会を創出します。	●スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出 国内外の観光客が、スキー場などの郊外型観光資源において、冬のアクティビティとして気軽にウインタースポーツに親しむことができるよう、スキーなどの体験機会を創出します。	例示として「スキー」を追記
51	P61	施策⑬国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します (1)～(5)	施策⑬国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します (1)～(4)	計画の公表時期を考慮して、 (1)冬季国体の記載を削除
52	P65		●スポーツ施設の戦略的な活用の検討 スポーツ施設を、これまでの維持管理に主眼を置いた運営から、将来的な「競技力向上・指導者育成」や「ジュニアの育成・強化」なども見据えた、より戦略的な運営へとシフトしていくための検討を進めます。	新規追加
53	P66	■行政(札幌市) 札幌市は、市民やスポーツボランティア、スポーツ推進委員等の地域の人材・団体と積極的につながり、その力をいかすとともに、 <u>体育振興会をはじめとする地域スポーツクラブ、競技団体やトップスポーツチーム、大学や企業と連携、協力しながら、競技の普及振興や地域・経済の活性化を進めていきます。</u>	■行政(札幌市) 札幌市は、市民やスポーツボランティア、スポーツ推進委員等の地域の人材・団体と積極的につながり、その力をいかすとともに、 <u>スポーツ関係団体やトップスポーツチーム、大学や企業と連携、協力しながら、競技の普及振興や地域・経済の活性化を進めていきます。</u>	今回、掲載する団体を増やしたことから、「スポーツ関係団体」としてまとめて記載
54	P67	■札幌市体育協会及び競技団体 (略) また、学校や地域とも連携しながら、 <u>指導者の派遣やスポーツの振興を担う人材の育成などの役割が期待されます。</u>	■札幌市体育協会及び競技団体 (略) また、学校や地域との連携に加え、 <u>今後は、スポーツ施設を活用し、「競技力向上・指導者育成」や「ジュニアの育成・強化」などを担える人材を、より戦略的に育成していく役割も期待されます。</u>	今後の方針を踏まえて修正

No.	ページ (修正後)	修正前	修正後(今回の配布資料)	備考
55	P67	<p>■さっぽろ健康スポーツ財団 (略) 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を整えていくため、さっぽろ健康スポーツ財団には、これまでに蓄積されたノウハウや豊富な人材を、最大限活用していくことが求められています。 今後も札幌市のスポーツ施策の一翼を担う重要な団体として、引き続き、連携協力体制を強化していく必要があります。</p>	<p>■さっぽろ健康スポーツ財団 (略) 今後は、これまでに蓄積されたノウハウや豊富な人材を最大限に活用していくとともに、その活動の場となるスポーツ施設を、これまでの維持管理に主眼を置いた運営から、より戦略的に活用する運営へと、将来を見据えて転換していくなど、引き続き札幌市のスポーツ施策の一翼を担う団体として、連携協力体制を強化していく必要があります。</p>	今後の方針を踏まえて修正

その他の修正点について

- ・文言の揺らぎ(取組み・取組、ウォーキング、ウォーキング、大規模大会・大規模競技大会など)や段落・行間などの修正を行っています。
- ・内容の変更を伴わない文言整理や「てにをは」の修正も行っていきます。
- ・年の表記については、原則として和暦・西暦の併記に統一しています。